

■XMLファイルエラー概要

1 以下の項目は、レコード毎に検証が行われ、内容に応じたエラーコードが付される場合がある。

種別	コード	検証項目	検証内容
レコード検証 - CRSデータ・フィールド(60 000 - 69 999)	60000	Account Number IBAN	Account Number typeがOECD601 = IBAN(国際銀行口座番号)の場合、口座番号はIBANの体系的な番号形式に従わなければならない。
	60001	Account Number ISIN	Account Number typeがOECD603 = ISIN(国際証券識別番号)の場合、口座番号はISINの体系的な番号形式に従わなければならない。
	60002	Account Balance	入力されたAccount Balanceがゼロ(0)未満である。この金額は、ゼロ(0)以上でなければならない。
	60003	Account Balance and Closed account	閉鎖口座属性に口座が閉鎖された旨を表示した場合、そのAccount Balanceはゼロ(0)でなければならない。
	60004	Person.Name Type invalid	選択された名称タイプは無効(すなわち、CRSに使用されていない値、OECD201 = SMFAliasOrOther)である。
	60005	Controlling Person must be omitted	口座名義人(Account Holder)が事業体(Organisation)であり、口座名義人タイプ(Account Holder Type)がCRS102またはCRS103の場合、実質的支配者(Controlling Person)を削除する必要がある(CRS102 = CRSの報告対象者、CRS103 = CRSの報告対象者である受動的NFE)。
	60006	Controlling Person must be provided	口座名義人(Account Holder)が事業体(Organisation)であり、口座名義人タイプ(Account Holder Type)がCRS101である場合、実質的支配者(Controlling Person)を記入する必要がある(CRS101 = 報告対象者である1人又は複数の実質的支配者がいる受動的NFE)。
	60007	Reporting Group	Reporting Groupを繰り返し記入することはできない。
	60008	Sponsor	Sponsorを記入することはできない。
	60009	Intermediary	Intermediaryを記入することはできない。
	60010	Pool Report	Pool Reportを記入することはできない。
	60013	Verify data sorting ReportingFI.ResCountry Code	ReportingFI.ResCountry Codeを必ず記載する必要があり、それがメッセージ送信国コードと一致しなければならない。
	60014	BirthDate	生年月日は妥当な範囲に収まっている必要がある(例えば、1900年よりも後であって今年より先ではない)。
	60015	AccountReport	報告金融機関を修正/削除する場合に限り、AccountReportを省略できる。報告金融機関が新たにデータを提供するか、再送信を行う場合には、AccountReportを提供する必要がある。
	60016	Controlling Person must be omitted (when the Account Holder is an individual)	口座名義人(Account Holder)が個人(individual)の場合、実質的支配者(Controlling Person)を削除する必要がある。

2 以下の項目は、送信済みレコードを修正する場合に生じる可能性のあるエラーである。

種別	コード	検証項目	検証内容
レコード検証 - 修正プロセスに使用されるフィールド(80 000 - 89 999)	80000	すでに使用されているDocRefID	このDocRefIDは、すでに別のレコードに使用されている。
	80001	DocRefIDの形式	DocRefIDの構成は、ユーザーガイドの規定通りの正しい形式でない。
	80002	不明なCorrDocRefId	CorrDocRefIdは不明なレコードを参照している。
	80003	無効なCorrDocRefId	修正されたレコードは、すでに無効である(以前の修正メッセージによって無効または期限切れとなっている)。そのため、このバージョンのレコードについての追加情報を一切受領してはならない。
	80004	新規データに対するCorrDocRefId	新規の要素にCorrDocRefIdが指定されている。
	80005	CorrDocRefIdの欠落	修正された要素にCorrDocRefIdが指定されていない。
	80006	DocSpec. CorrMessageRefID	DocSpec_Type内にCorrMessageRefIDを入力するのは禁止されている。
	80007	MessageSpec. CorrMessageRefID	Message Header内にCorrMessageRefIDを入力するのは禁止されている。
	80008	再送信オプション	再送信オプションは、Reporting FI要素にのみ使用できる。
	80009	報告金融機関の削除	関連する口座報告をすべて削除しないと、報告金融機関を削除できない。
	80010	Message TypeIndic	メッセージには新規レコード(OECD1)または修正/削除(OECD2およびOECD3)のいずれかを含めることができるが、それら両方の組み合わせを含めることはできない。
	80011	同一メッセージ内の2つのCorrDocRefID	同一のメッセージ内で同一のDocRefIDを2回修正または削除することはできない。
	80012	Reporting Period	1つのメッセージには、異なる2つの報告対象期間のデータを含めてはならない。
	80013	不明なDocRefID (再送信オプション)	再送信オプション(OECD0)において、不明なDocRefIDが指定されている。
80014	無効なDocRefID (再送信オプション)	再送信オプション(OECD0)において指定されたDocRefIDはすでに無効である(以前の修正メッセージによって無効または期限切れとなっている)。	

※OECDホームページ(<http://www.oecd.org>)に掲載されている「Common Reporting Standard Status Message XML Schema : User Guide for Tax Administrations」を基に作成